

現地レポート JAおおいた(大分県)発

# 大分で産地・ブランド化が進む 全農育成根深ねぎ品種「あじばわー」

「あじばわー」は、全農 営農・技術センター 農産物商品開発室が開発した根深ねぎで、神奈川県で栽培されていた「湘南」と群馬県の伝統野菜「下仁田ねぎ」から育成した品種である。最大の特長は「下仁田ねぎ」特有の風味を持つ食味のよさにあり、甘くて柔らかいと評判が高い。つくりやすい品種が全盛のなかで、おいしさに重点を置いた「あじばわー」が注目されており、各地で普及が進んでいる。

そこで、今回は「あじばわー」の産地化に向けた、JAおおいたの取り組みを紹介する。



▲おいしさに重点を置いた「あじばわー」



▲「あまねぎ」ブランド名で販売

## “あまねぎ”産地拡大への取り組み

大分県は西日本一のねぎ産地であり、根深ねぎ（白ねぎ）も九州一の生産量を誇っている。県北地域が主産地であるが、4年前から水稲農家の転作品目として「あじばわー」の栽培が始まり、“あまねぎ”というブランド名で販売が行われてきた。

JA全農おおいたとJAおおいたは、TACの活動のなかで、これまで転作品目としてにんにくの産地化に取り組んできたが、平成22年度は、担い手生産者に対し新たな転作品目として「あじばわー」の栽培を提案した。その結果、JAおおいたの佐伯豊南、野津町、大分のぞみ、大分市、さわやかの各地域本部管内の29戸・約140aで栽培されることになり、広域的な取り組みに発展した。

具体的な取り組みとしては、栽培経験のない生産者に向けた栽培講習会や定植作業実演会の実施、JA・全農の関係者が一体となった巡回指導などを行うことで、高品質な「あじばわー」生産を進めてきた。

## 「あじばわー」栽培産地を訪問

今回は「あじばわー」産地のなかから、大分市地域本部管内とさわやか地域本部管内の2圃場を訪問した。大分市地域本部管内では7戸・38aで栽培されている。訪れた12月下旬は風が強く、強風による葉折れがみられたが、「葉鞘部も食べる関西向けに葉付で出荷したいが、葉折れしたのに関しては葉切りを行ってから出荷している」とのことであった。

また、さわやか地域本部管内では5戸・16aで栽培されている。この地域は比較的標高の高いところであり、ねぎを栽培するうえで適地と考えられる。当地で栽培されている「あじばわー」は、伸長性がよく重量もあるため、今後ピークを迎える出荷が楽しみであるとのことであった。



▲「あじばわー」圃場

## 販売先からは「おいしい」との評価

販売ルートは、JA全農おおいたが主体となって開拓し、大阪・福岡を中心に出荷されている。出荷は11月下旬から始まり1月下旬まで続くが、販売先からは「おいしい」との評価をいただいている。また、出荷に際しては“あまねぎ”ブランド強化のため、県北地域の先行産地と販売面で連携を行うとともに、統一した出荷袋と出荷箱を作製した。

今後は、栽培技術の向上や販売強化を目的とした県域での「あまねぎ県域生産者協議会」の立ち上げを検討しており、TACチームを中心とした“あまねぎ”のブランド強化、産地拡大への取り組みに期待したい。また、当室では、「あじばわー」のパフレット作成、成分分析データの提供などを通して営農・販売の両面から支援していく。

【全農 営農・技術センター 農産物商品開発室】